

三度目の正直で“やれて良かった” 小雨の中 作業開始。雨にも負けず山桜救出。



雨のち曇りの予報を受けつつ「三度目の正直」で現地に集合。しかし、作業場は斜面で足下が悪く危険を伴うので、安全に行う事を確認。十分に気をつけて作業に臨もうと、小雨のなか例会を決行しました。

8時には2班の担当者、各グループのリーダーが集合し道具を準備。グループのリーダー5名は、作業現場へ行き、それぞれの担当エリアと作業内容を確認し、集合場所の楠那公民館へ戻りました。

9時過ぎ開会。見勢井顧問の挨拶の後、当日のスケジュール、作業説明、安全上の注意事項を再確認。ラジオ体操で体をほぐし、グループに分かれ作業現場へ向かいました。

楠那公民館から、登山道を登り現地到着。恒例のグループ毎のミーティングを行い、いざ作業開始。

A グループは、立ち枯れた桜の伐倒と処理を行いました。ロープチルホール、滑車を使用し、内部に空洞があったため、狙いの方向と多少のズレは生じたものの、安全に伐倒する事ができました。

B、C、D の各グループは、黄金山中腹にある桜の倒木処理と山桜へ至るまでの作業道作り。特にC、Dの2グループは足場が悪く、刈り払い機を使わず手ノコでの作業となりました。どのグループも、作業場までたどり着くのに道なき道の藪漕ぎ状態で、道を切り拓きながら前進しました。

E グループは、作業場所入り口手前の篠竹(シノダケ)林の伐採。篠竹は高さが3mほどで、細く群がって生え、伐採後は見晴らしを取り戻しました。

小雨も11時には上がり、昼食はグループ毎でとりました。午後は、少し早めの12時45分からスタートし、引き続き作業を行い14時に終了。その後、楠那公民館へ下山し、使用した道具の手入れと軽トラへの積み込みを済ませ、終了のミーティングを行い、15時過ぎ解散しました。例会初参加の恵木さんから『雨だったのにカップを忘れてしまいずぶ濡れになりながらの活動でしたが、良かった！また参加したいです』。同じく初参加の沖本沙耶さんは『皆さん優しく教えてくださり非常に有意義な時間を過ごせたと感じております。本当にありがとうございました。また参加させていただければと思っております。』と、嬉しい感想をいただきました。

ヒヤリハットはありませんでしたが、篠竹を伐る際に、切り口が鋭利になり危険を伴うナタやカマを使った人がおり、安全なノコを使用するという作業指示の徹底が必要であることを確認しました。

最後に、楠那公民館内のトイレを使用させていただいた際、雨と泥で汚れた靴が、階段や廊下を汚してしまい大変ご迷惑をお掛けしてしまいました。職員の方が新聞紙を敷かれ対応して下さいました。誠に誠にありがとうございました。



①山桜枯損木の処理。②ロープチル
ホールの取り扱いを説明。③篠竹を
伐って見晴らしを取り戻す。④終了
のミーティング。右端は北田班長
⑤立ち枯れた桜を伐倒